

ふくろと

2007
冬号
No.021

当院では、職員を対象とした研修会を開催しています。平成19年度は、外部講師による「医療機関における暴言・暴力への取り組み」の講演や実技、救急蘇生や腕のモデルを用いた注射の実技研修、その他、接遇や栄養管理の勉強会など様々な研修会を開催してきました。

今後も研修会等をとおり、職員の知識や技術向上に取り組んでいきます。



緩和ケア 認定看護師の役割



最近、緩和ケアという言葉が新聞などでも取り上げられ、以前よりも多く耳にする機会が増えました。ここでは「緩和ケア」とそれに携わる「緩和ケア認定看護師の役割」についてお話しさせていただきます。

● 緩和ケア認定看護師 ● 石川 千夏

みなさん、緩和ケアと聞くと、どのようなイメージを持たれるのでしょうか。人によっては「緩和ケアって終末期のケアのことですよ」と、おっしゃられます。このように、緩和ケアは未だ「終末期」とか「最期の…」というイメージが一般的にあるようです。確かに、緩和ケアは終末期のケアという時代もありました。しかし、現在は違います。緩和ケアは「命に関わる病気になられた患者さんと、そのご家族が直面する様々な問題が解決できるように支援すること。また、緩和ケアは、病気を診断された時点から必要である。」という考え方になっています。この問題の中には、痛みなどの苦しい症状をはじめとし、治療に伴う副作用、気持ちの落ち込み、治療費などの経済的な問題や療養生活に関してなど、あらゆるものが入ってきています。緩和ケアの考え方で核となるものは、少しでも苦しい症状や問題が解決され、患者さん・ご家族が自分らしく、よりよく生きられる

こと、患者さんの人生観や死生観が尊重されることにあります。

「緩和ケア認定看護師」は言葉のとおり、緩和ケアに携わる看護師です。しかし、緩和ケアは認定看護師だけがこなすものではありません。患者さん・ご家族を中心として、医療者全員がチームとなって行うものです。緩和ケア認定看護師の役割を一言でいうと、「緩和ケアを行う上でのチームの調整係」といったところでしょうか。市立秋田総合病院には「緩和ケアチーム」と「緩和ケア外来」があります。緩和ケアについてご相談やご質問があれば、ご遠慮なくお申し出ください。



医療用麻薬について一言

緩和ケアでは、患者さんの痛みを取るために「麻薬」を使用する場合があります。「麻薬」ということで「中毒になる」「最期の薬」というイメージを持たれがちです。しかし、現在は安全に使うことができる「医療用麻薬」が多く開発されています。これにより大勢の患者さんの痛みを和らげられ、医療用麻薬を内服しながら社会復帰されている方もいらっしゃいます。

緩和ケア外来のご案内

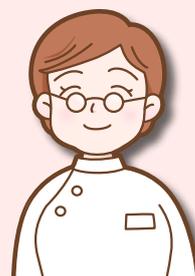
当院では、平成 19 年 3 月より緩和ケア外来を開設しております。
毎週木曜日、(午前 10 時、午後 1 時 30 分より) 完全予約制にて実施しています。

お問い合わせ先

● 事務局医事課

TEL 018-823-4171 (内線 2167)

※ 受診には主治医の紹介状が必要となります。



内視鏡を使用した治療が進歩してきていますが、整形外科の分野でも開発されてきています。今回は整形外科科長、木村善明先生にお伺いいたしました。

治療の最前線
第三回



木村 善明 先生
(整形外科)

体に優しい医療

～整形外科の低侵襲手術～

皆さんは「低侵襲」という言葉を知っていますか？我々外科系医師が目指すもののひとつとして、この言葉は近年益々重要なキーワードとなっています。

患者さんの治療のために施される様々な検査や投薬、そして我々が行う手術治療。病気を治すためとは言え、どれをとっても患者さんの体に負担を与えるもので、これを侵襲と表現します。同じ手術でもこの侵襲すなわち患者さんへの負担を極力減らして術後の回復を早めようとする手法が低侵襲手術といわれるものです。簡単に言えば、患部に到達するために行う切開を小さくし、皮膚や筋肉のダメージを極力少なくする技術と考えていただければ良いと思います。皮膚や筋肉のダメージが少ないと、手術中の出血や術後の痛みも少なく、回復も早くなります。

整形外科における低侵襲手術の代表格といえばやはり関節の病気に対して行われる関節鏡を用いた手術になると思



います。現在行われている関節鏡手技は日本の渡辺正毅らが1959年に開発した渡辺式21号関節鏡



を端緒とし、特に膝関節の治療の主要な手段として世界中で発展してきたものですが、今では膝関節のみならず、肩・肘・手・手指・足・股関節疾患、脊椎・脊髄疾患、腫瘍、神経疾患に対しても行われるようになってきています。約1cm程度の小さな切開を数力所に入れるだけで患部を評価し、適切な治療を施すことができる素晴らしい技術です。

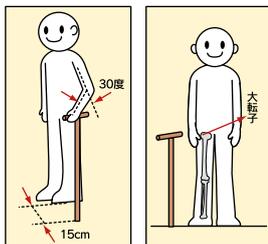
また近年の医療器機の進歩により、整形外科の低侵襲手術は関節鏡手術だけでなく、膝・股関節の人工関節手術や、大きく切開することが当然であった骨折の手術にも用いられており、小さな皮膚の切開で効果的な手術が行われる様になっています。

今後も様々な分野で低侵襲の治療が発展していくと思います。当科でも関節鏡はもちろん他の手術においても低侵襲な治療、患者さんの負担が少ない治療を心がけ、それを安心して受けられるようになっております。是非一度ご相談してみてください。

正しく使って、
負担を少なく!!

杖の正しい使い方について

転ばぬ先の杖と言われるように、杖には転倒の防止だけでなく、膝や腰などへの関節にかかる負担を少なくする大きな役割があります。杖には使う人によって適した長さがあります。



杖の長さの決め方

まっすぐに立ち、片方の肘を軽く(約30度)曲げ、足先の外側約15cmの位置から手のひらまでの長さ。または、床から腰骨の少し下の突起(大転子という骨の部分)に杖の握りがあるのが適当な長さといえます。

杖を持つ手はどっち?

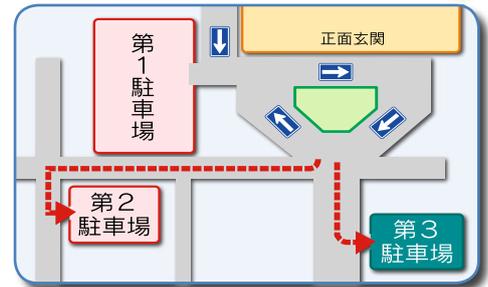
▶▶▶ けがや痛みのある方とは**反対側**の手で杖を持つのが正解です。

けがや痛みのある方に持つと思われがちですが、そうではありません。反対側に持つことによって、関節などにかかる負担が分散され、支える面積が大きくなるため歩く時に安定するのです。

平成19年10月1日より、第3駐車場が終日利用可能となりました。

●●● 駐車場のご利用について ●●●

外来患者の方は、診察後、会計書と処方箋を受け取ってから30分間は無料。以後、1時間につき100円がかかります。
お見舞いに来られた方は、はじめの30分間を無料でご利用いただけます。



◆ 市立秋田総合病院研修 ◆

周 承剛

(ジュ チェンガン)

● 蘭州市第二人民医院 外科



張 小妮

(ジャン シャオニ)

● 蘭州市第一人民医院 小児科

この度、10月20日から12月15日まで、市立秋田総合病院外科で研修することになりました。各先生のご指導の下に、日常診療のありかた、また手術方法など、日本の最新の理論・実地を学んでゆきたいと思っています。

研修をとおして、お互いに意見交流を活発に行いながらも、スタッフの皆さんが協力している姿に感心いたしました。大いに学ぶべき姿勢と感じております。

帰国してから、このことを紹介し、臨床に応用してみようと考えております。



インフルエンザ予防接種のお知らせ

インフルエンザウイルスに感染することにより、突然の高熱、頭痛、関節痛等の症状があらわれます。

予防接種を受けることによりインフルエンザにかかる率も低く、かかっても軽いと報告されております。接種後2週間程で抵抗力が付き、効果は5ヶ月間あるといわれています。なるべく12月中には接種を終えることをおすすめします。

時間 毎週火・金曜日午後2時から(受付は午後1時30分から)

人数 1日40名(予約制)

場所 呼吸器内科(中学生以下は小児科外来へお問い合わせ下さい)

料金 3,150円(税込)

- 秋田市に住民票がある65歳以上の方は2,000円
- 生活保護受給者は無料

持参するもの

- 保険証 ● 老人健康手帳または生保受給者証 ● 予診票

ご不明な点は事務局医事課へご連絡ください

☎ 018-823-4171

市立秋田総合病院

理念

- 市立秋田総合病院は、すべての人々の幸福のため、良質で安全な医療を提供し続けることを目指します。

基本方針

- 患者さんに信頼されるあたたかい、心の通い合う医療を行います。
- 多様化する医療への要望に応えるために、常に医療水準の向上に努め、地域の中核病院としての役割を果たします。
- 患者さんの権利や意思を尊重し、十分な診療情報の提供と相互理解に基づく医療を行います。
- 医療の安全のさらなる向上に努めます。
- 良質な医療を提供していくために、健全な病院経営を目指し、業務の改善と効率的な運営に努めます。

編集・発行/市立秋田総合病院 平成19年11月30日発行

〒010-0933 秋田県秋田市川元松丘町4番30号 Tel(代表):018-823-4171 Fax:018-866-7026

E-mail: ro-homn@city.akita.akita.jp http://www.city.akita.akita.jp/city/ho/newho/default.htm